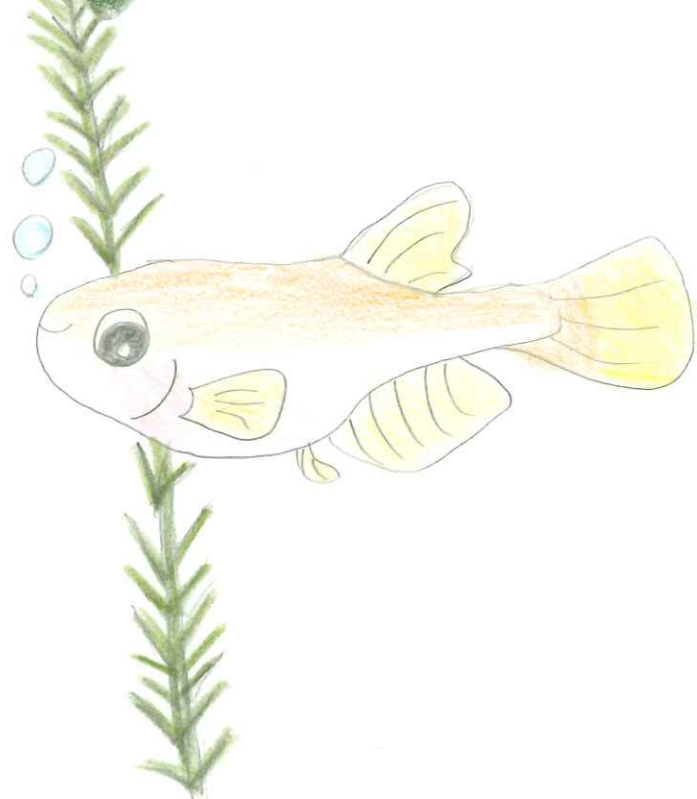


水たの

いり



＜どうしてメダカのことを
調べようと思ったのか？＞

学校でメダカのことを勉強していて、
先生にメダカをもらって家で育てていて、
きになることが何個かあったので、
調べてみることにしました。

目次:

1. 池にいるメダカは、何を食べているの？
2. 人間が飲む水道水は、魚の水そうに使う
はいけないの！？
3. メダカは、何個くらいたまごを
うむの？

1. 池にいるメダカは、何を食べているの？

池の中には、ミジンコのような、えさになる小さな生き物がたくさんいるのです。

■ 池の中には、生き物がいっぱい

池の中には、トンボの幼虫のやこ、アメンボやミミズマシなどの水生こん虫、小えび、ザリガニ、貝、おたまじゃくしなどの小動物や、水草やもなどの植物が見られます。そのほかにも、けんひきょうでや、とわかるような、プランクトンと呼ばれる小さな生き物がたくさんいます。

■ メダカは、何でも食べるので、池ではえさにこまらな

- メダカは、水草やもを食べるほか、ミジンコをはじめとしたプランクトンを食べています。
- 海の魚たちも、海にいるプランクトンをえさにしています。

2. 人間が飲む水道水は、魚の水そうに使ってはいけないの!?

水道水に入っているえんそは、人間にとってわずかな量だけど、その中にくらす魚には害をあたえるのです。

■ 水道水にまじっているえんその量は、百万分の1

水道水は、川の水をさまざまな方法できれいにし、さらにさっきりよくの強いえんそがスをふきこんであります。さっきんがまぎれこんでいても、えんそのさっきんよくで消えてくされて、食欠人でも安全な水になっているのです。混じっている塩その量は、百万分の1~4ぐらいです。体の大きい人が水道水をかぶるのみしても、こんなわずかなえんその量しかふくまれていないので、ほとんど何も起こりません。

■ 水中にくらす魚には、えんそは有じく

水中の魚などはこきゅうするのも、食べたり飲んだりするのも、みんな水を通して行っています。たとえば魚のこきゅうは、たえず口から水を食欠みこみ、その水がえらを通るとき、水中にとけているさんそをえらの血管に取り入れていきます。だから、わずかにとけこんでいるえんそでも、体に取入れられる量は、人間が飲み水でとるより多くなります。しかもたいていの魚は、人間より体が小さいですから、えんそからうける害も大きくなります。

3. メダカは、何個ぐらい産むの？

メダカは、ふ、つう、1回に10~50個のたまごを産み、数回産卵するので、200~500個ぐらいい産んでいるのです。

■ たまごを産む時期になると、メダカは毎日のように産む

メダカは、水温が18℃以上になる4月~10月の間、数回たまごを産みます。水温が上がってメダカが元気にすごせる時期には、毎日たまごを産むといわれていますが、たいてい何びきかい、しょに飼っているのでは、きりしてません。メダカが1回で産むたまごの数は、およそ10~50個ぐらいて、体が大きいメダカは、たいてい、産むたまごの数も多いです。

■ 親になるまで生きれる数が少ないから、たまごをたくさん産む。

メダカのメスはオスと協力してたまごを産み、オスの精子と結びついた受精卵は、しばらくの間、メスのほらにくっついていきます。やがて、たまごは水草などからみつき、ふ化が始まります。けれども、たまごのほとんどが、えさとまちがえられて、おとなのメダカに食われてしまいます。自然の川や用水路等では、たまごをねらう小動物がたくさんいますから、ふ化するまで生きのびる数は少ないのです。また、ふ化したばかりの小さな小魚も、ほかのメダカや魚、水生こん虫などのえさになり、なかなかおとなになるまで生きのびられません。だから、たまごを産んで子孫をのこせるメダカは、本当にわずかです。そのため、メダカはたくさん産んで、子孫をのこそうとしているのです。